

# ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

レジャーや野外作業、農作業等でダニの生息場所に立ち入ると、ダニに咬まれることがあります。ダニがウイルスや細菌などを保有していた場合、以下のような病気を発症することが知られています。

★日本紅斑熱

媒介ダニ:マダニ類  
 症状:高熱・紅斑など

★つつが虫病

媒介ダニ:ツツガムシ類  
 症状:発熱・発疹・リンパ節の腫脹など



フタトゲチマダニ  
 提供元:  
 国立感染症研究所

★ライム病

媒介ダニ:マダニ類  
 症状:初期には遊走性紅斑や発熱、  
 後に様々な神経症状など

★ダニ媒介脳炎

媒介ダニ:マダニ類  
 症状:発熱・筋肉痛・  
 頭痛・悪心など

★重症熱性血小板減少症候群  
 (SFTS)

媒介ダニ:マダニ類  
 症状:発熱・消化器症状など

	大きさ	生息場所
マダニ類	1mm~1cm ダニの中では大きな部類 吸血すると数倍になるものもある。	主に森林や草地などの屋外に生息
ツツガムシ類	0.5mm以下の微小なダニ	林、草むら、河川敷などの土の中

※全てのマダニ類・ツツガムシ類が病原体をもっているわけではありません。

## ダニに刺されないために<予防のポイント>

特にダニの活動  
 が盛んな春~秋  
 にかけて注意!

- ① 野生動物が来るような野山や草むら・藪・河川敷など  
 ダニが生息する場所に入る時は、腕・足・首など肌の露出を少なくしましょう。
- ② 服の上や肌の露出部分に、虫除け剤(ディート成分を含むもの)を噴霧しましょう。(虫除け剤の子どもへの使用は、添付されている使用上の注意をよく読んでください。)
- ③ ダニが多く生息する場所では、地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりしないようにしましょう。
- ④ 用をたす時など一時的に肌が露出する際にも注意が必要です。  
 (ダニは数日~10日かけて吸血しますが、痛みやかゆみはあまりなく、咬まれたことに気づかないことが多いと言われています。)
- ⑤ 野外活動後は、すぐに入浴し、頭や体をよく洗って、新しい服に着替えましょう。入浴やシャワーの時にはダニが肌についていないかチェックしてください。ダニがついていた場合は無理にとろうとせず、皮膚科等を受診し、とってもらいましょう。

★野外活動の後、数日~2週間程度のうちに発熱・発疹等の症状が認められた場合は、速やかに医療機関を受診してください。その時、野山や草むらなどに立ち入る機会があったことを伝えて下さい。